

●問い合わせ 中央公民館  
TEL 32-1132 FAX 37-1153  
●編集 公民館報編集委員会  
●印刷 株式会社プラルト

発行  
2022  
11/30

# 公民館報 まつもと



第50回神林ふれあい文化祭



▲こいのぼりの元、和太鼓の演奏を鑑賞

横沢町の農家組合の皆さんを中心組織している「横沢わくわくスペースシップ」では、6月になばな祭りを開催し、「コロナに負けるな」として、こいのぼりの元で威勢の良い太鼓演奏を鑑賞し、家族みんなで黄色のなばな摘みをしました。



▲みんなでなばな摘み

横沢公民館や子ども会育成声があがっていました。横沢公民館や子ども会育成



▲アルプホルンの演奏を鑑賞



▲東保育園にさつま芋を贈呈

米や野菜づくりをとおして、継続的に地域の交流の場、わくわく体験の場となっていることは、これからも続いてほしいと願っています。

# 梓川公民館報

梓川の世帯数・人口

世帯数	4,792戸
人口	12,341人
男	6,100人
女	6,241人

(令和4年.11.1現在)



## 農業を身近に感じる

## わくわく体験

## 梓川ウォークラリー 2022

松本市スポーツ推進委員協議会(梓川担当)主催による梓川ウォークラリーが10月16日(日)に開催され、梓川地区内をクイズやゲームを楽しみながら歩きました。



小学生の親子を中心に、17組63人が参加しました



コマ回しを頼りに、道に迷わないようゴールを目指せ



歩いたことのない梓川の道で、美しい景色に出会いました



クイズゾーンには、梓川地区に関する問題が多数出題



ゲームゾーンのピンポン玉を紙コップに入れるゲームは苦戦



約5kmのコースを90分かけてようやくゴール

## 防災体制にデジタル活用

災害時には迅速かつ正確な情報を求められます。里山辺の北小松町会では非常時に備え、情報通信技術の活用を始めています。

### 安心確認の課題

松本市里山辺地区の北小松町会は、703世帯1596人が暮らす比較的大きな町会です。

町会にも、いざという時のための防災組織があり、やはり課題のひとつは有事のときの安否確認。8〜20軒で構成される隣組は54班ありますが、有事のときに対面での安否確認は膨大な時間が掛かります。また在宅せず外出などしていた場合には、対面での安否確認は出来ません。

### デジタル活用

町会では防災体制の課題を解決するため検討を続けた結果、保護司・消防士などから情報通信技術の活用のアイデアが出されました。

松本大学防災研究所や、シバー人材センターのシニアパソコン教室とも連携して、災害から命を守る隣組単位のきめ細かな防災システムづくりを計画しました。



北小松町会ホームページ 動画が流れます

### 始めた運用

委員会では3年計画の初年度にあたる今年、まず隣組班長単位で、災害時の安否確認用のLINEの運用を始めました。

ホームページを開設し、平時には町会に関する連絡事項



分かりやすいスマホ画面

を掲示し、災害時には気象・河川・県の防災情報などが取得出来る体制を作りました。公民館にはWi-Fiを設置しました。

また情報通信技術を使用する環境に無い方などの連絡漏れを防ぐため、当面町会の連絡などは今まで通りの紙ペー

### 町会ホームページ

情報通信技術になじんで端末の取り扱いを可能にするため、定期的なスマホ教室なども開催していますが「委員会を組織したそもその目的は、情報通信技術を使うことではなく、災害時に一人の犠牲者も出さないこと」が、もっとも大切なこと」とは、北小松防災力向上委員会の丸山委員長をはじめ全役員の皆さんの思いです。

## 電話でお金はすべてサギだまされないで!

緊急事態です 皆さんは公民館入口にあるピンクの看板にお気づきでしょうか?お住まいの地区で実際にあった、詐欺電話の内容が書かれています。「保険料の過払い金を還付します」「年金を返します」など、公的機関を名乗る手口が多いそうです。

体的な詐欺内容を地域づくりセンター入口に掲示するほか、「詐欺の詳細を知らせる出前講座」「蟻ヶ崎高校書道部に依頼し、啓発文の掲示」などを実施しています。しかしながら、被害を低減するには至っていないのが現実です。



グッズも活用しよう

### 騙されなから

深刻な事態に警察と行政が連携して手を打っています。松本警察署では、前出の具

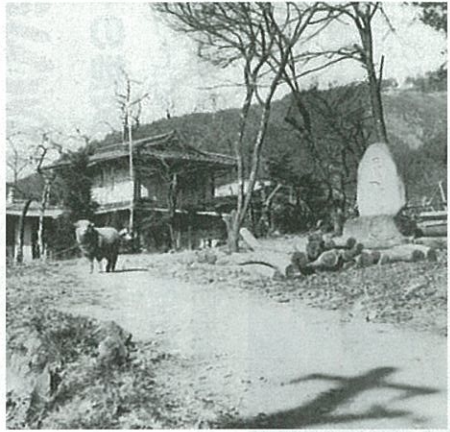
急増している被害は、最終的には私たちが自分自身で防ぐことが必要です。いざとなったら冷静さを取り戻すのは大変なことですが、留守番電話の使用が導入しやすく、効果があるそうです。



他にも電話を一旦切り、正規の連絡先に確認し直す。飼犬の名前などで合言葉を決め確認する。特殊詐欺の出前講座を利用する、などが挙げられます。心の隙に付け込む特殊詐欺、お互いの注意で被害を防ぎたいものです。

# 写真でつづる まつもと今昔(60)

## ～ 入山辺 柴宮神社前 軍馬記念碑 ～



(撮影:1952年)

写真提供:入山辺地区西桐原公民館

日露戦争以降、戦場に出た軍馬のために慰霊碑や記念碑が各地に作られました。碑には明治三十六年十二月と刻まれています。



(撮影:2022年10月29日)

木々も茂り遠くが見通せなくなりました。道路整備の際に土が入れられたことが、石碑の台座の高さからうかがえます。

### 視点

#### ⑨音楽を楽しむ 仲間と楽しむのクローニャー ミュージックバンド

#### 中高生ジャズバンド

ミュージックトイズは、中学生と高校生によるジャズバンドです。Mウイングを拠点に活動しています。松本市内外の学校から集まったメンバーは、小5から中2まで下級生が所属する「キッズ×キッズ」を合わせて、約50人に上ります。現在は、地区のイベントへの出演やクリスマスコンサートに向けて、週1回程度のペースで練習を行っています。



練習風景、後藤さんの熱い指導

#### 音楽を楽しむ経験

2005年に後藤浩輔さんがミュージックトイズを立ち上げました。当時楽器店に勤めていた後藤さんは、高校進学に合わせて音楽をやめてしまおう生徒が多いことに、何とかしたいと考えていました。

#### 仲間と楽しむ理由

後藤さんはミュージックトイズを通して「みんなで助け合っ て取り組む体験をしてほしい」と願っています。メンバーの柳澤咲希さん(高2)は「学校や学年を越えて交流できることがミュージックトイズの魅力」と話し、練習からメンバーで楽譜を囲み、活発に意見が交わされます。



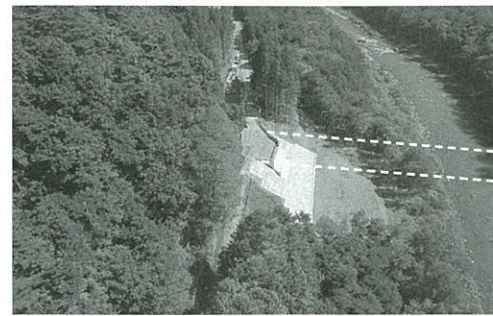
仲間と話し、一緒に演奏を完成させる

取材風景はこちらから♪



## おこひる

今年も実りの秋が訪れた。春に植えた稲が秋になりこがねの穂を垂らし刈る時を今か今かと待っている。機械化が進む前は家族や親戚で稲刈りやはず掛けを行っていた。そんな農作業の合間に、お母さんたちが用意してくれたおこひるをみんなで土手に座って、何気ない会話を楽しみながら食べるのが楽しみであった。そして、英気を養って、また作業に取り掛かる。しかし、今は機械化が進み、稲刈りと同時にもみにして袋へ入れて保存してしまうことがほとんどである。おこひるを食べている間もないほどである。お宮は秋祭りの真っ最中である。感染症が広がる前までは稚児たちは白拍子に合わせて舞を奉納する。境内の中には沢山の店が並び子どもたちはどのお店にしようか友達と一緒に楽しそうに選んでいた。自宅ではお祝いしようかと親戚が集まり楽しく食事をしながら会話を楽しんでいた。今は、感染症と共存しながら行動することが求められる。気兼ねなく行動ができる日が来ることを願っている。



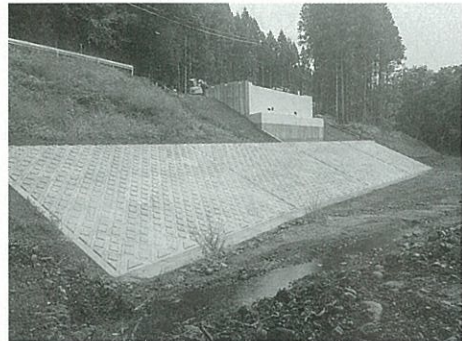
▲上空からの工事現場の様子(提供 松本建設事務所) 点線は橋のイメージを加筆しました

### 八景山に新しい橋建設中

梓川地区にはいくつもの橋がかかっていますが、更に新たな橋がかかれようとしていることをご存知でしょうか。現在、平成25年4月に起きた大規模な岩盤崩落発生による県道大野田梓橋停車場線の通行止め解消を目的に、梓川(八景山地区)と国道158号を橋梁で接続する工事が進められています。

通行止めになつてから10年近く。かつては上高地方面へ行き来する車も数多く通行していましたが、今ではほぼ地元住民が使うだけの道路となつています。

橋が完成すれば、安心して通行出来る道路として、再び様々な人に利用されるようになっています。



▲架橋工事の様子(提供 松本建設事務所)

になります。さて、完成は何年後? 新たな橋を通る自分の姿を思い描きながら、気長に待ちましよう。



### バス停の場所を安全のために変更

西部コミュニティバスの大妻口バス停が、狭い歩道の上になりましたので、小学生の通学などに危険でした。梓川地区まちづくり協議会が、北大妻第一町会からの移転要望を松本市へ提出したところ、設置場所が安全な場所に變更となりました。

また、地区内でも歩道の雑草の丈が伸びて通行の妨げになっている所や、庭木の枝が歩道に伸びている所があります。

梓川地区地域づくりセンター



▶大妻口バス停



▶除去後



▶除去前

### 歴史と文化財を学ぶ 市民講演会

梓弓研究会は、10月15日に市民講演会を開催し、地区内外から20人余りが参加しました。講演をした川村修さん(梓弓研究会事務局長)は、梓川地区の歴史や文化財を中心に説明し、地区の皆さんが研究成果を参考に文化財や文化財の保存に関心をもってほしいと話していました。

▲講演をする川村修さん



▲講演をする川村修さん

## 雑記帳

今の社会情勢のなか、おうち時間が増えた方が多いと思う。その中で有意義に過ごすためにガーデニングや家庭菜園をはじめ方も増えているとのことだ。緑に癒されるだけでなく、育てる楽しみも感じられる。

家庭菜園は、子どもと一緒に楽しめる。野菜が育つ過程を知ることで、野菜を作る楽しさや難しさを実感すること、食べ物への感謝の気持ちを持つことにつながる。もちろん枯れてしまったり、虫がついてしまったり、思ったように収穫できないことも多い。そのような中で、自分で育てたものを自分で収穫して食べることは、大きな楽しみである。

花や野菜を育てていく中で、農家の方が出荷されているようなものを作るには、多くの手間がかかっていることを感じられる。

緑や土には、心を癒す効果があるという。ストレス解消にも花や野菜を育てることを試してみることも良いのではない。

# 歴史探訪 探る松本 31

## 一番新しい松本の地区 松原地区

生まれて30年ほど、祭りも行事も若々しい歴史です。人口2,966人、世帯数1,239世帯で7つの町会があります。

### 松原地区誕生の歴史

松本市の東南部に位置し、面積は45ヘクタールのコンパクトな地区です。「松原」の名は、松林に覆われた土地を切り開いたことに由来します。昭和53年から土地の整備が始まり、62年には300世帯の住宅が建てられました。翌年の63年に寿地区の白川町会から分町し、松原町会が発足しました。そして平成15年に地区として独立しました。

### 「いいづら祭」

全ての住民が他の地区から移り住んでいるため、住人同士の絆をいかに作り、深めるかという課題に、当初から取り組んできました。例えば、住民の町会対抗運動会も、よりに参加しやすく、楽しめるようにと、少しずつ内容を変えて、現在は「ウルトラゲーム大会」となっています。また、平成5年からは住民のふれあいを創造する場とし



模擬店を楽しむ「いいづら祭」

て「いいづら祭」を毎年7月に開催しています。住民が工夫を凝らした模擬店を出店し、食べ物や小物を販売します。中学生が準備や模擬店の販売、放送係の手伝いをしてくれるなど、老若男女が集う機会となりました。

### 地元有志の輪

地区の中心に松原モールがあり、モールの中央部には「からくり仕掛けの時計台」が立ち、松原地区の宝として住民を見守っています。



秋晴れのからくり時計

平成10年、火災で時計台が焼けてしまいました。

当初、時計台を修復しようと「ミセス8」と呼ばれる8人の女性たちが立ち上がり、一部は修理できましたが、まだ大きな費用が必要でした。

その後平成30年に、松原モールの再活用を通じて地区の活性化をはかる「松原モールぷろじえくと」が立ち上げられました。また、それと歩調を合わせるように、単独で活性化や美化活動をしてきた有志たちの連携が広がりました。

すると、その流れで時計台の修復の機運が自然と高まりました。有志の中には、電気や工芸の専門家もいて、結果、お金をかけずに時計台を直すことができました。

松原モールの再活用など、住民の交流や地域の活性化に不断の努力をしている松原地区のこれからの楽しみみです。

## 表紙について 松本蟻ヶ崎高校書道部 パフォーマンス



第50回神林ふれあい文化祭が10月16日(日) 神林公民館、福祉ひろば、体育館で開催されました。ステージ発表前のオープニングセレモニーで、音楽と踊りと書道が一体化したすばらしいパフォーマンスが披露されました。

(撮影 2022.10.16 神林体育館)

## 松本平の野鳥たち



カケス (2021.10 アルプス公園 写真提供:信州野鳥の会) 全長33cm。腰の白色部や翼の一部に青色・白色の細かい縞部分が良く目立つ。ふわふわとゆっくり飛ぶ。松本平の里山では普通に見かける鳥。カラスの仲間では鳴声はジャーとしわがれた声。他の鳥の鳴き声などの物まねが上手。